

令和4年度 学校評価 自己評価書（後期）

1 学校の重点課題

- 学びを充実させる規範意識の醸成と思考力・判断力・表現力の向上
- 傾聴と共感を基盤にした生徒指導と多様性を尊重する態度の育成
- 健康な体と粘り強さを育てる健康・体力づくりと安全指導の充実

2 課題と改善策

	評価項目	職員		評価結果と改善方策
		前期	後期	
豊かな学力の育成	1 調査結果分析に基づく対策と実施	2.5	2.7	・諸調査の分析をもとに授業改善の視点を示すことができた。 ・個々のつまづきを踏まえた個に応じた指導（指導形態の工夫・補充指導等）の工夫を進める。
	2 主体的・対話的で深い学びの実現	2.7	2.9	・授業改善チェックシートを活用した相互参観や授業研究を行い、授業づくりへの共通理解を図れた。板書やICT機器を使い、見方・考え方を可視化することで、思考力の向上を図る必要がある。 ・他者の考えと関連付けて聞く力をさらに伸ばし、対話活動の充実に努める。
	3 GIGAスクール構想の推進	2.7	2.7	・中高学年では、毎日、タブレットを活用した授業を実施できた。使用中で、使い方も含め課題も出てきた。タブレットの活用の仕方について手引きを再編集した。教員共に、よりよい使い方について共通理解を積み重ねていく。
	4 特別支援教育の充実	2.4	2.8	・職員間の連携や外部との連携を図り、児童への支援に改善が見られてきた。 ・就学指導についても計画的に進めることができた。 ・特別支援学級の経営も含め、来年度の支援体制について早めの検討を図る。
	5 資質・能力を育成する家庭学習課題	3	2.6	・家庭学習については、取組状況に個人差が見られる。授業と関連付けながら課題を出し、基礎的内容だけでなく、思考力・表現力を要する内容を取り入れる。
豊かな心の育成	1 基本的な生活習慣の確立	3.2	3.2	・進んであいさつをすることや身の回りの準備や整理整頓に課題があった。 ・授業前の準備の習慣化を図りながら、準備の大切さや整理の方法等を伝える。
	2 Momの精神を大切にしたい人権教育の充実	2.7	2.7	・Momの精神を大切に指導を行い、教師がよいモデルを示したり、よい行動を価値付けたりしている。それにより、困ったときに相談できる人間関係づくりや他者の思いを想像する力の向上を図る。
	3 規範意識を養う積極的な生徒指導	3	3	・児童会を主体とした校内パトロールを行い、児童の規範意識向上を図った。 ・もやもやした思いを暴力や暴言でぶつける児童の姿があった。困った時に思いを言葉で伝え合うことで解決する経験を積み重ねられるように指導している。
	4 読書に親しむ態度の育成	2.5	2.5	・読書への意識に個人差があったので、定期的に図書室に行く機会を設けたり、国語の授業と関連付けた読書活動を行ったりすることで読書の習慣化を図った。
	5 考える道徳の授業充実	2.7	2.7	・みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことで、自己のよりよい生き方について考える機会を設定した。
健やかな心と体	1 新しい生活様式を踏まえた学校生活	3.1	3.1	・新型コロナウイルス対策（手洗いの励行、マスクの着用、手指の消毒など）に全職員で取り組むことができた。時と場面を考慮した指導を重ねていく。
	2 健康な体と粘り強さを育てる体力・気力づくり	2	2.7	・コロナ禍において運動が不足している児童もいる。体育委員会を中心に、ランニングやなわとびなど、始業前に取り組むことができた。体育の時間での運動量の確保に努めていく。
	3 家庭と連携した健康意識の向上	2.7	2.8	・学級PTAや学校保健委員会、家庭教育学級等を生かし、メディアとの適切な付き合い方について意識の向上を図った。
	4 安全指導の充実	3.1	2.8	・登下校中をはじめ、交通ルールやマナーを守ることに課題があった。継続的に事例を交えながら指導している。
特色ある学校づくり	1 特色ある教育活動の推進	2.9	3	・ボランティアの方々の協力のもと、田植えから餅つきまで、米作りを計画どおり実施できた。また、地域の方から麓のことや日本遺産について学ぶこともできた。持続可能な体験活動の検討を進めている。
	2 教育環境の整備充実	2.7	2.6	・夏季休業や冬季休業中には、古い物や使っていない物を整理し、整然とした環境づくりを進めた。また、縦割り清掃期間を設けることで、掃除の仕方を上級生が下級生に伝えることができた。整頓後の維持が課題である。
	3 教職員の資質向上	2.8	2.9	・職員は、校内研修や校外研修に積極的に参加している。さらに、深まりがある研修となるよう、互いが自分の考えを表現する機会を大切にしている。また、服務指導についても、継続的に実施できた。

3 次年度に向けての取組

- 学びの結果だけでなく、過程（学び方、考え方、粘り強さ）を称賛し、価値付けていく。
- 児童の困り感に寄り添い、情報を共有しながら、チームで対応することのできる支援体制をつくる。
- 学習においても運動においても、継続的な努力を仕組み、見届けと承認を継続し、成就感や満足感を大切にしたい教育活動の充実を図る。
- 授業の充実とともに、学級PTA等を充実させ、インターネットやオンラインゲーム等との付き合い方について学校と家庭が連携して取組を進める。
- 学校運営協議会や学校支援ボランティアコーディネータとの連携を図り、地域の教育資源の積極的活用を図る。